

電気飛行機が実用化に向けて飛び立った

◆ドイツのシーメンスが小型機の飛行に成功

2016年7月、シーメンスは、小型電気飛行機の初飛行に成功したと発表した。既存の軽飛行機にシーメンスが新たに開発したモーターSP260Dを搭載し、10分間飛行した。この開発は、ドイツの連邦経済エネルギー省が進めるドイツ飛行機研究プログラムの一つとして、行われているもので、プロペラはババリアのMTプロペラが開発している。一方シーメンスはエアバスと100人乗りで航続距離1,000kmのハイブリッド旅客機の開発も進めており、20年までに経済性の評価を行う予定である。

こうした電気飛行機の開発の背景には、欧州委員会が50年までに航空機からのCO₂排出量を75%削減したいと考えていることがある。



資料：シーメンスホームページ
<http://www.siemens.com/innovation/en/home/pictures-of-the-future/mobility-and-motors/electromobility-electric-aircraft-maiden-flight.html>

◆NASAは14個のプロペラを持つ電気飛行機の開発を進めると発表

16年7月にNASAは、10年計画のNew Aviation Horizons initiativeの一環として、小型の電気飛行機の開発を推進することを発表した。X-57（愛称Maxwell）と呼ばれるもので、シーメンスの小型機と異なり、両翼に14個のモーターを搭載している。小型の12個のモーターで離着陸し、翼の末端の大型の2つのモーターで水平飛行するものである。



Credits: NASA Langley/Advanced Concepts Lab, AMA, Inc.

再生可能エネルギーを利用できればCO₂を出さない飛行機が実現できる。しかし、電気飛行機を実用化するためには、蓄電池容量の大幅な向上や軽量化など、電気自動車よりも要求される性能が高く、大きな課題がある。 【松村晴雄】